

お正月の作法

お正月は一年の大きな節目。親戚付き合いや来客の対応などに追われる特別な時期でもあります。マナーや礼節を学んで、

新しい年を気持ち良く迎えましょう。

新年の

ご挨拶

新年に招かれたら、約束の時間より早く着き過ぎると相手に迷惑を掛けるので気を付けましょう。家にかかる場合は、玄関に入る前にコート類を脱ぐのが正式な礼儀です。挨拶（あいさつ）だけで帰るなら着たままで。コート類を脱いでいると、家の上がっていくのかな、と相手に気を使わせてしまいます。靴を脱ぐときは、そのまま前向きに脱いで家に戻ります。上がつてからは人にお尻を向けないようにしゃがんで、靴の向きを変えます。冷蔵や冷凍品のお土産はその旨を

伝えて玄関先で渡し、それ以外のお土産は部屋に通されてご挨拶をするときにお渡しします。「お年賀」の熨斗（のし）紙は1月7日（地域によって15日）まで。



お酒の作法

お正月にいただくおとそは、日本酒や本みりんにとそ散（ニッキやさんしょうなど）を浸した物。長寿を願ひ、邪気をはらうためにいただきます。おとそは、同じ杯で年の若い順から飲んでいき、最後に年長者や厄年の人がその英気をいただく、とされています。お酒をいただく機会が多いお正月。お酌を受けるときは必ず両手で器を持ちます。注がれたら一度は口を付けてから器を置きましょう。ワイングラスだけは持ち上げずテーブルに置いたままで、手も添えません。特にワイングラスは割れやすいので、乾杯するときにグラス同士も当てないようにしましょう。



新年の

飾り付け

生け花アレンジメントでは、若松・南天・千両・葉ボタン・菊・柳などを生けるとぐつと新年らしくなります。季節の野菜（そさい）を飾って縁起を担ぐのもお勧めです。大きな柑橘（かんきつ）類で「大吉」。柑橘の橘（きつ）は「吉」（きち）と音が通ることから、大きな柑橘は新年が「大吉」でありますようにという祈りもあります。「ふじりんご」「タカノツメ」「ナス」で、「一富士二鷹（たか）三茄子（なすび）」で縁起のいい「初夢」を表すなど。七草の寄せ植えは、見ても食べても楽しめる。しめ縄も近頃はモダンなリース型になっていきます。お正月飾りは、12月28日までか30日に済ませましょう。29日は「苦飾り」といって縁起が悪く、31日は「一夜飾り」といって神様に失礼に当たります。1月7日（地域によっては15日）に下げます。

